

気温上昇を1.5~2℃に抑える =排出量実質0へ



「パリ協定」で、世界は
「温室効果ガス排出量実質0」に合意

パリ協定の
長期目標 今世紀後半に温室効果ガスの人為的排出と吸収を均衡
させる(=排出量実質0)

日本の
長期目標 2050年までに**80%の温室効果ガス排出削減**を目指す
<地球温暖化対策計画より>

京都府の
長期目標 平成62年度(2050年度)までに温室効果ガスの排出の
量が平成2年度(1990年度)に比べて**80パーセント以上
削減**された持続可能な京都を創造する
<京都府地球温暖化対策条例より>

くわしい説明

IPCCによると、気温上昇はCO₂等の累積排出量に比例するとされています。つまり、気温を安定化させるためには、累積の排出量を増加させないと=新たな排出を実質0にすることが必要とされています。

2016年11月に発効した「パリ協定」は、目標として、世界の気温上昇を産業革命前と比べて2℃より低くすること(できれば1.5℃)を掲げています。そして、その実現のために、今世紀後半に温室効果ガス排出量を実質0にすることを目標として設定しました。パリ協定には、アメリカ、中国、EU、インド、そして日本など、あらゆる国が正式に参加しています。世界は、排出量実質0へむけて大きく動き始めています。